







戦略スローガン

- ◎ 万国の労働者・被抑圧人民は団結し、世界革命戦争—世界プロレタリア独—社会主義・共産主義建設の社会主義革命に勝利せよ！
- ◎ 世界革命戦争に勝利せよ！
- ◎ 帝国主義—社会帝国主義を世界革命戦争で打倒し、世界プロレタリア独裁を樹立せよ！
- ◎ 現代日和見主義—現代修正主義を粉砕し、世界党—世界赤軍—世界革命戦線を建設せよ！
- ◎ 日本プロレタリアート人民は、第三世界解放闘争と世界革命戦争で結合し、帝国主義と社会帝国主義の侵略・反革命戦争を粉砕せよ！
- ◎ 侵略・抑圧・反革命—差別分断攻撃攻撃粉砕！
- ◎ 安保—NATO—ワルシャワ条約—国際反革命同盟粉砕！
- ◎ 米帝国主義の対日反革命抑圧粉砕！
- ◎ 日本帝国主義打倒！
- ◎ ソ連社会帝国主義の反革命粉砕！
- ◎ 社帝・社民の反革命策動を粉砕し、プロレタリア独裁の権力機関=世界革命戦争の闘争機関=臨時革命政府(革命戦線政府)を樹立せよ！
- ◎ 非合法中央集権一職業革命家の党、軍事組織—労働者地下細胞の党建設！
- ◎ 党の武装を核心とする建軍—武装闘争堅持！
- ◎ 労働者を基礎とする被抑圧人民の統一戦線建設！
- ◎ プロレタリア革命軍=赤軍建設！
- ◎ 社会主義革命戦争—全人民武装蜂起を闘へ取る正規の攻囲建設！

# 差別判決を打ち破り、石川氏を即時奪還せよ！

許せざる暴挙「無期懲役」をはねのけ、切の融和主義・敗北主義を粉砕し、狭山闘争を更に発展させよ！

10月31日、日帝—寺尾はまったく許し難い暴挙「差別判決」—「有罪無期懲役」を下した。実に多くの当然たる予想を裏切って、寺尾はこの有罪判決を単に石川氏に対してのみでなく、三〇〇万部落大衆、部落解放闘争—狭山闘争を闘う全ての人々に対し、しかり部落解放闘争そのものに対して、将に日帝の最後のアガキの挑戦として投げつけてきたのである。将に政治的階級的判断としての差別判決である。

10月連続闘争を頂点とする、将に全人民的政治闘争としての大昂揚を迎えた狭山闘争に対する階級的恐怖と憎悪に満ち満ちる。

「狭山公判」の攻防の環はこの一点にあったのであり、そして判決は「灰色の無罪」での一見帝国主義自体の妥協ともとれる中で、狭山闘争の自然消滅と融和主義の育成を追求する事ではなく、「有罪」という一歩の後退をも取れないという最後の階級的抵抗—アガキを、日帝—寺尾のなみなみなめ決意でもって正面からの反撃に撃って出たのである。

「狭山闘争を粉砕せよ！」今や日帝の「スローガン」はこの様に高らかに掲げられたのだ。

しかし、この日帝のアガキは将に怒りに燃え、勝利の確信に満ちている

部大衆の更なる狭山闘争への決意を軸とする、全める階層を包摂したところの闘争自体の圧倒的拡大の解答を、その判決

日から即刻迎えている。望を一時的に与えはした。怒り闘いの決意は満ち満ちているのである。望、しかしこの差別を断じて許さず、確実に打ち破る圧倒的声と力はこの山闘争を更に発展させ、石川氏、御両親に深い失敬を、10月31日を確実に勝利の記念日とするのである。差別判決を粉砕し、狭山闘争を更に発展させよ！

## 連載資料 (第二回)

### 同盟再建に向けての苦闘 二年間の各分派の闘いの軌跡

#### 解説

この釜ヶ崎地区委員会の文章は、本年四月、「メーデー闘争」に関しての釜ヶ崎分派の内部論争に対して同委員会の基本方針として提出されたものである。今年のメーデーに関しては、その方針についての討議以前に、二年間にわたる釜ヶ崎—釜ヶ崎での運動総体に対する総括と、それを土台とした運動総体の方向が要求されていた。この内実を巡って釜ヶ崎内部での論争も深刻な闘いを要求され、大別すると「メーデー」をなんとしても釜ヶ崎の運動として取り組むべきだとする「メーデー派」と、単なるスケージュールの運動と組合主義的闘争スタイルに揮毫する事を拒否し、この困難な時期こそ運動の中で総括を確立すべきだとする「総括派」に分かれその論争が展開されてきた。釜ヶ崎地区委員はこの二者に対して第三の立場をこの文章の提出をもって計ろうとしたものである。

しかし、釜ヶ崎地区委員自身の組織的解体状況下においてこの提起は、前回の「解散宣言」と同じく、その当時にあっては単なる理論的位置付けと純粹論理上の方針に留まらざるを得ないというそりをまぬがれ得ないであろう。

## メーデーと総括 第一次釜共闘白鳥の歌

一九七四年四月末 共産同赤軍派釜ヶ崎地区委員会

(1)「メーデーか総括か」という一見くだらなくすなわち何をいまだらなくみえる論争は、それだけに一層、現在の釜共闘、本質的には寄せ場における革命運動のしんどさを表現している。

(2)越冬闘争は釜共闘の分

(3)メーデーに釜の労働者セクトに対して、総括—解と権力への完敗を、みごとくに表現した。総括論を二〇〇〇—三〇〇〇名を二〇〇〇—三〇〇〇名結果するという運動屋的している。労働者が動けず、まともな闘いというところまでなく、そこで出された四の傾向の破産は、そのことの追認であり、今又「メーデーか総括か」ところなく露呈している。我々はそういって経済主義を露呈している。

(4)「総括を」そつだ。我々は敗北を情念の最深部にかかえこみ統括している。労働者戦士」のみ発する声として、それを断固として支持する。釜ヶ崎の昂揚にのりつづいて、生かす生かすとした容れ反乱に、労働者政治という名で「革命」をくさらせ、経済主義的政治のみはびこらせる部分に対する、我々の声は、やはり第一に「総括を」ということである。

(5)しかし、我々は「総括派」に反対した。そして今も徹底して「総括派」と戦わねばならないと考えている。それは総括を、現実の「人」建設—革命運動の闘いから引退した地帯で提出することへの反対として表面化しているか、根本は、彼らの釜ヶ崎—ナロードニズムと排外主義、そして暴動、ゲリラ、合法闘争を並列する空論的戦術思想、権力問題における政治闘争の観点における政治闘争の批判として欠落している。しかしそれは釜ヶ崎地区委員の総括と路線をめぐめる内的戦いと共に存在したのであり、別箇に語ることはできない。

(6)越冬をめぐる経済状況と敵階級の路線は以下であったらう。石油危機とインフレに対する総需要抑制という資本主義の危機は冬場と結合することによって寄せ場労働者の生活危機を法的なものにしていった。一方武装制圧と破防体制で寄場反革命支配を強化している敵階級は種々な近代化政策の一環として、五〇〇〇万円の暴動対策費と軍事警察体制という「アメと





# 刑法改悪—保安処分—ファシズム体制を 革命戦争で粉砕せよ!

「ひろく保安処分」といふときは、およそ国家社会の治安を保持せんがためになされる一定の行政的処分のいうが、一般に刑法にいう保安処分とは、犯罪その他これに準じて考えられる反社会行為への危険性が予想される場合、これに對し、社会の安全を保持する目的、または危険性のある者を改善する目的をもつてなされる国家的処置を指す。それは犯罪行為への危険性が予想される人、または物に對し特殊の処置を講ずることに よつて、社会の安全を保持し、公共の福祉に奉仕しようとすると共に、時には危険性の主体を改善して社会道德をも実証しようとしているものである。

保安処分を刑法上どうとり入れるかとの問題は、本世紀初葉以來、西歐諸国を中心として刑法改正上の重要な課題であつたのである。諸国は年々増加してゆく常習犯罪人の前に、従来の懲罰的な自由刑の行使のみでは、これを補充するに不十分である。これを補完するに、将来の反社会行為に對する保安処分をもつて

## 差別攻撃の実態

70年代治安立法として政治過程に登場していることを確認しなければならぬ。しかしながら、「保安処分」は、現在の日常の弾圧の中に含まれていない。これは階級社会における「犯罪」は、階級矛盾の表現に他ならないこと、この「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

「六月以上の懲役に処せられた累犯者が更に罪を犯し、累犯として懲罰される」といふのが、この「保安処分」の目的である。これは階級社会における「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

「六月以上の懲役に処せられた累犯者が更に罪を犯し、累犯として懲罰される」といふのが、この「保安処分」の目的である。これは階級社会における「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

## 反革命弾圧

「六月以上の懲役に処せられた累犯者が更に罪を犯し、累犯として懲罰される」といふのが、この「保安処分」の目的である。これは階級社会における「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

「六月以上の懲役に処せられた累犯者が更に罪を犯し、累犯として懲罰される」といふのが、この「保安処分」の目的である。これは階級社会における「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

「六月以上の懲役に処せられた累犯者が更に罪を犯し、累犯として懲罰される」といふのが、この「保安処分」の目的である。これは階級社会における「犯罪」は、人間を分類し差別するものであり、階級矛盾が個人の矛盾に転嫁され、それが支配階級の手段として治安のために利用されたのといふまでもない。

刑法改悪—保安処分攻撃を粉砕せよ!

